



九大フィルハーモニー・オーケストラ Kyudai Philharmonic Orchestra

九大フィルハーモニー・オーケストラは、九州大学と福岡市近郊の大学の学生で構成される日本でも有数の永い歴史と伝統を持つアマチュアオーケストラである。現在、100名以上の現役部員が所属し、年2回開催される定期演奏会を目標に、精力的に活動している。1909年に九州大学の前身である福岡医科大学の構保三郎氏によって創立され、以降、石丸寛氏や荒谷俊治氏、堤俊作氏を指揮に迎え、発展を遂げてきた。1924年には皇太子時代の昭和天皇ご成婚を祝す「摂政宮殿下御成婚 奉祝音楽会」にてベートーヴェン/交響曲第9番「合唱」第4楽章を演奏。一説に日本初演と言われている。さらにはメンデルスゾーン/交響曲第4番「イタリア」やハイドン(L.モーツァルト)/交響曲「玩具」などの日本初演を果たすなど、明治から大正時代にかけての日本のオーケストラを牽引してきた。2009年には九州大学に先立って創立100周年を迎えるとともに、永年にわたる音楽文化の向上や地域文化の振興に大きな役割を果たしていることにより、福岡市民文化功労賞を受賞。2014年には鈴木優人氏を九大フィル初代ミュージック・アドバイザーに迎え、さらなる活動の充実を図っている。2018年には200回を数える定期演奏会を開催し、同年、東京のサントリホールにて特別記念演奏会を開催した。定期演奏会の他にも、九州大学伊都キャンパス内の日本ジョナサン・KS・チョイ文化館での毎月のクラシックセッション(アンサンブル演奏)の開催や九大祭での演奏、幼稚園での創作音楽劇上演など、地域に根差した文化活動を展開。官公庁や企業、学会からの依頼による出張演奏なども行っており、福岡県内の様々な場所において幅広い音楽活動を行っている。

指揮者プロフィール



©Marco Borggreve

鈴木 優人 Suzuki Masato

指揮 Conductor

1981年オランダ生まれ。東京藝術大学及び同大学院修了。オランダ・ハーグ王立音楽院修了。令和2年度(第71回)芸術選奨文部科学大臣新人賞、第18回齋藤秀雄メモリアル基金賞、第18回ホテルオーケラ音楽賞受賞。第29回(2021年度)渡邊暁雄音楽基金音楽賞受賞。2018年9月よりバッハ・コレギウム・ジャパン(BCJ)首席指揮者、2020年4月から読売日本交響楽団指揮者/クリエイティブ・パートナーに就任。音楽監督を務めるアンサンブル・ジェネシスでは、オリジナル楽器でバロックから現代音楽まで意欲的なプログラムを展開する。指揮者としてアンサンブル金沢、NHK交響楽団、九州交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、広島交響楽団、読売日本交響楽団等と共演。2017、2020年には鈴木優人プロデューサー・BCJオペラシリーズを制作、上演。モンテヴェルディ：歌劇「ポッペアの戴冠」(2017)、ヘンデル：歌劇「リナルド」(2020)はバロック・オペラの新機軸として高く評価されるとともに、後者は第19回佐川吉男音楽賞を受賞。作曲家としても数々の委嘱を受けると同時に、J.S.バッハBWV190喪失楽章の復元や(Carus)、モーツァルト「レクイエム」の補筆・校訂が(Schott Music)、高い評価を得ている。メディアへの露出も多く、NHK-FM「古楽の楽しみ」レギュラー、テレビ朝日「題名のない音楽会」にもゲストとして出演している。録音はBCJとのJ.S.バッハのチェンバロ協奏曲集(BIS)、タメスティとのデュオ(Harmonia Mundi)など多数。調布国際音楽祭エグゼクティブ・プロデューサー、舞台演出、企画プロデューサー、作曲とその活動に垣根はなく各方面から大きな期待が寄せられている。九州大学客員教授。

ソリストプロフィール



上野 星矢 Ueno Seiya

フルート Flute

19才で世界的フルートコンクール『第8回ランパル国際フルートコンクール』で優勝。世界を舞台に活躍する日本クラシック界を代表するアーティスト。東京都出身。小学校4年生でフルートを始め、全日本学生音楽コンクール全国大会中学生の部、高校生の部など、国内主要コンクールの数々で優勝を果たす。15才でデビューリサイタルを行う。東京都立芸術高等学校卒業後、2008年、東京藝術大学音楽学部器楽科入学。同年、世界的フルート奏者の登竜門である『第8回ジャン・ピエール・ランパル国際フルートコンクール』で優勝。杉並区文化功労賞受賞。

2009年、パリ国立高等音楽院に審査員満場一致で入学。2012年同音楽院第一課程を首席で卒業。2014年、ミュンヘン音楽大学大学院を首席で卒業。

2014年、New York Young Concert Artistにて優勝。2015年秋には全8か所のアメリカツアーを成功させ、ケネディセンターでのリサイタル、最終公演はニューヨーク・カーネギーホールでリサイタルデビューを果たす。

2019年より大阪音楽大学准教授。現在にはほ世界を舞台に、ソロリサイタルやオーケストラとの協演などの演奏活動の他、音楽教室経営、コンクール審査、国際講習会開催等、あらゆる分野にて活躍中。

これまでに日本コロムビアレコード、Laplace Recordより6枚のCDをリリース。

2012年『万華鏡 KALEIDOSCOPE』

2013年『DIGITAL BIRD SUITE』

2015年『into Love』

2018年『テレマン：無伴奏フルートによる12の幻想曲』

2019年『W.F.バッハ 2本のフルートのための二重奏曲集』

2022年『フルート三大ソナタ』

第25回青山音楽賞新人賞受賞、第17回ホテルオーケラ音楽賞受賞。

これまでに東京交響楽団、チェコフィル八重奏団、イル・ド・フランス国立管弦楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、オーヴェルニュ室内管弦楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、群馬交響楽団、札幌交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団等と共演。テレビ朝日「報道ステーション」、NHK「ニューイヤーオペラコンサート」、NHKラジオ「きらクラ」「ベストオブクラシック」、NHK「クラシック倶楽部」等、メディアにも度々出演。